

# 「とっとり森林・林業振興ビジョン（案）」に係るパブリックコメントの実施結果について

令和3年3月24日  
林政企画課

令和3年1月21日に常任委員会報告してパブリックコメントを実施した「とっとり森林・林業振興ビジョン（案）」について、その結果を報告します。

## 1 実施結果

- (1) 意見募集期間 令和3年1月21日（木）から2月19日（金）まで
- (2) 周知方法 ホームページ・新聞広告の掲載、チラシの配架
- (3) 受付意見数 199件（128名）

## 2 主な意見と対応方針

区分	意見概要	対応方針
森林整備	皆伐後は、スギ、ヒノキに限らず広葉樹の植栽等柔軟な対応が必要だ。	最終案に記述する。
	本県に自生しないコウヨウザンやカラマツの植栽は慎重に行うべきだ。	現在、モデル的な取組を進めており、全県普及にあたっては学識経験者の意見も伺い慎重に進める。
	全国的に再生林の実効率が低く、皆伐施業を推進すべきではない。	森林資源が充実する中、皆伐による更新が今後必要となり、森林所有者の負担軽減を図りながら皆伐再生林を推進する。
	ナラ枯れは、道路周辺の枯損木の伐倒除去程度の作業にとどめ、経過を観察する等で十分だ。	今後、指摘のあった意見を踏まえ、専門家会議等の中で必要な対策を検討する。
林業労働	林業労働災害低減の目標が必要ではないか。	林業労働災害は、撲滅（ゼロ）を目指しており、数値目標の設定は必要ないと考えている。
	これまでの作業システムを見直して林業労働安全対策を講じることが重要である。	労働災害の発生原因も分析しながら、作業システムの見直しを検討する。
	意欲ある小規模事業者をうまく育てるような施策も進めるべきだ。	これまでも小規模事業者も支援対象に含めて事業を進めており、今後も育成支援を継続する。
	現場に精通し山を観る力とITデータをバランスよく掛け合わせる事ができる人材の育成が肝要だ。	指摘のあった観点も踏まえてスマート林業の人材育成の中で推進する。
森林教育	森林環境教育や木育の拡充を望む。理解して楽しむ教育が重要だ。	森林・環境教育や木育の充実に取り組むこととしている。
県産材	非住宅建築物での県産材利用の推進にあたっては、設計士の養成が重要である。	最終案に記述する。
	木材の地産地消の取組を推進すべきだ。	最終案に記述する。
特用林産	新規しいたけ生産者の確保について記載すべきだ。	最終案に記述する。
その他	風力発電事業に反対だ。	森林法等関係法令に基づいて対応する。

## 3 今後の予定

年度内に策定し、公表予定